1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700354
法人名	(株)プロデュース
事業所名	グループホームきらめき上の原 (ユニット名 流星・太陽)
所在地	福岡県北九州市八幡西区上の原2丁目17-11
自己評価作成日	平成29年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るいあいさつ元気な会社」と経営理念を掲げ、私たちは高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと、こころと心をつなぎ地域に貢献します。スタッフ間で感謝を伝え合い、明るく元気に、チームワークの良い愛あふれたホームです。今年度は、励まし合い、認め合い、支え合う「私たちはチーム」を目指します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年が経過するところで、1階に小規模多機能型居宅介護、2階が2ユニットのグループホームとなっている。社長の熱い思いの経営理念のもと、利用者一人ひとりを大切に、苦しみも涙も喜びもすべて受け止め、「ここにいいのよ」という温かい関わりと、職員自身も利用者の笑顔と共に過ごす姿がある。職員の人材育成にも力を入れており、知識技術だけでなく、介護を担う者として考え・まとめ・発信していく力を育成している。そのことが意見や提言となり、ホームのサービスの向上や地域に元気をもたらす力強さになっている。こころと心をつなぐ具体的なことのひとつとして、“きらめきキッズ”の存在がある。子どもたちが毎日訪問してきて利用者や関わり、床拭きボランティアをしたりしている。友達を連れてきて、その人数が増えている。この子どもたちは介護の未来を希望あるものになっている。事業所名にあるように、常に関わる人たちがみんな“きらめいている”ような事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年3月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	☐	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「明るい挨拶 元気な会社」私たちは 高齢者介護を通じて尊厳を守り、思いやりと感謝 を持ち続け生きがいある生活のお手伝いをします。笑顔になる人間関係を築き、人とひと・ところ と心をつなぎ地域に貢献しています。	当ホームの理念、更に各ユニットの理念を職員が話し合って作り、毎年見直しもしている。利用者の居場所、ここに居ていいんだと安心して過ごせる場として、また、利用者だけでなく、職員も認め合い、支え合い、笑顔で理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	肉屋、八百屋、魚屋へ注文をし、ほぼ毎日配達を して頂き、入居者様と食事作りをしている。地域の夏祭り、運動会、敬老会などに参加させて貰っている。	当ホームをはじめ、地域も元気にしたいという思いで地域との交流を実践している。家族のボランティア、更に子どもたちが毎日訪問してきて利用者や関わり、床拭きボランティアをしている。友達が友達を呼び、人数が増えてきている。新計画として、地域交流室で地域の人達の手作り物朝市の開催予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「きらめきだより」を発効ご家族様へ送付。 地域の方々にも見て頂き、情報発信しながら支援理解してもらえ工夫を心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目が昨年5月、7月、9月、11月、今年1月、(次回は3月予定)開催。家族会が発足されて3年。家族の方、地域の方の意見や要望を 聴き、改善出来るよう取り組んでいる。1月に徘徊ネットワーク構築に向けて成功事例の講演を開催した。	自治会長、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、利用者、その家族等が参加して2ヶ月に1回開催している。毎回テーマを決めて取り組んでいる。次年度に向けてはアンケートを取って既に1年間のテーマを設定しており、地域の人たちの認知症の理解と協力、ホームのサービス向上に向けて前向きである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に必ず包括支援センターの方に 参加して頂き助言指導をして頂いた。	制度改定やそれに伴う加算に関すること等を聞いたり、グループホーム協議会に市職員が来た時に質問したりしている。またその回答を後にFAXで受けたりと連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夕方19時まで開放している。運営会議等で拘束について話し合い周知している。ちょっとした声掛けが行動や意欲を制止していることもあるので、入居者様の思いを知り寄り添う介護を目指している。必要な時は家族と話し合いを持つようになっている。	日中、玄関は常に開放し、日差しや風が入るようにしている。身体拘束禁止の趣旨は十分に承知している。1件、利用者の心身状態と家族からの強い要望からやむを得ない拘束として行っている事例がある。拘束を外した時間等、記録を残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様との会話の中でスタッフ同士お互いに注意し合い言葉による虐待(近い言葉)が無い様指導している。入浴時に皮膚の観察を行い皮下出血などある時は記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を立てている方が入居されている。必要に応じて入居の際説明をしている。	権利擁護については契約時に家族に説明をしており、また、成年後見制度のパンフレットを設置している。職員には権利擁護の外部研修を受けてもらっている。ひとりの利用者に後見人がいることから職員も学びの機会になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際必ず説明を行い理解、納得してから契約を行っている。センター方式をるようにして過去の生活状況を充分聞き取り意見要望を聞いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が発足されており話し合いの場を持って頂いています。意見をまとめて報告をもらい改善していけるように努めている。	利用者に対して、また、家族の訪問時、話しやすい雰囲気づくりをして、しっかり聴き、受け入れるようにしている。職員は入らずにm家族だけで話し合う家族会も行っている。家族会からや個人的に出された意見・提案に対して迅速な対応をされている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に社長との面談がある。提案や改善の必要性があれば改善している。	社長や管理者は常に傾聴・受容の姿勢があり、職員は社長との面談時の他、運営会議やユニット会議等で意見・要望・提案をしている。意見が取り入れられることが職員のやりがいにもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員に対して声掛けしモチベーションがアップ出来るように心掛けている。今後は口頭で伝えられない事をアンケートで吸い上げる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	16歳から73歳までの職員がおり個々の能力を発揮、お互いが理解してチームワークを大切に取り組んでいる。職員同士の良い所に着目し個人の強みを伸ばしながら勤務できる様に協力し合っている。	職員の採用では性別・年齢に関係なく採用している。得意とすること、花壇づくりや野菜作り等、個々の能力の発揮を承認・評価している。また、資格取得に向けて1週間の休みや勤務時間帯を個別に調整したりと、職員の権利保障を配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	物事を他人のせいにするのではなく自分で考えていく力をつける介護ファシリテーションプログラム研修をうけ入居者様の人権尊重を心掛けたケアに取り組んでいる。	長期間にわたる外部研修や、短期間あるいは1日の研修に出したり、また、伝達研修をすることによって人権教育を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や職員の能力に合わせ社外研修で学び出来た事を報告し共有している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徘徊ネットワーク会員、GH経営者や管理者と情報共有している。GH協議会入会し事例発表会や研修に参加し他者との情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っていること、不安や要望を聴き安心して頂けるように、努めている。センター方式の活用が信頼関係に結びついている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族の困っていること、不安や要望を聴き安心して頂けるように、努めている。センター方式の活用。初期段階では、本人、ご家族とのコミュニケーションを多く持ち安心して頂けるように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、本人、ご家族の困っていること、不安や要望を聴き安心して頂けるように、努めている。センター方式から、生まれ育って生きてきた背景をもとにケアするようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で入居者様から沢山の事を学びお互いに支え合っている関係。本人の出来ることを日々気づき協力して頂いている。感謝の気持ちを伝え出来た事は喜びを共に感じ自信を持てるように支援している。喜び、悲しみ、怒りを共に分かち合いながら、信頼関係を築いているよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告、相談を行い、よりよいケアが出来るよう信頼関係を築いている。毎月家族通信を送っている。ご家族様が来られた時は、ご家族様だけで過ごして頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のお部屋に、ご家族様が泊まったり、地域交流室で家族様とゆっくり過ごせるように支援行っている。 ご家族様がボランティアに来て下さっている。	行きつけの美容院や、家族から鍵を預かって配偶者の仏壇参りをしたり、お墓参りに連れて行ったりしている。また、家族にも協力を得てなじみの場での外食をしたりと、関係が途切れないように、一人ひとりを大切にしたい個別ケアの支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にソファーに座られ、そっと手を握りスキンシップをとっている光景をみかける。 廊下を肩を並べて歩いている光景あり。 お互いの居室を行き来し仲良く話されたりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからもご家族様と連絡を取り合い、ご本人様の状態をお聴きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本位の暮らし方が出来るよう希望、意向は必ずお聴きしている。 意思の疎通が出来ない方には、ご家族様に情報を頂き、望まれるであろう生活に近づけている。	本人との会話の中で生活歴やライフスタイルなどを聞き、家族や兄弟とも話し合い、利用者の思いを生活の中で活かせるように工夫している。また、日々の援助の中で得た情報は、センター方式の中に記入し、ユニット会議などで共有している。困難な場合は、日々の生活の中でしぐさや表情からくみ取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族様に生活歴を記入して頂き情報を収集している。 センター方式活用。 入居後もご家族様、ご本人様からお聴きする情報もあるので、スタッフで共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のその日の心身の状況を観察し把握し自由で快適に過ごせるよう努めている。 毎月のカンファで現状の把握を行い、今後の支援を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に変わりのない方は3ヶ月に一度カンファレンスを行い計画に反映している。 ユニット毎の事前ミーティングと全体ミーティングで介護職員がカンファレンスの際細かく意見を出す仕組み作りをしている。ユニット内MT→全体ミーティング→ケアプラン作成とチームで計画を作っている。	ユニットごとと全体ミーティングで利用者の状態を担当者が説明し、職員間で話し合い介護計画を作成している。退院が近い方など個別の対応が必要な方場合は、担当医師や訪問看護師と相談し、利用者や家族の思いを反映して安心してもらえるような計画を作成している。	ミーティングでは短期目標の各項目ごとに話し合いが行われているが、記入欄が少ないため、内容が網羅できるような様式について、今一度検討する機会を持つことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご家族様へ変化は書面や電話で報告し、相談の後計画に反映させケアを行っている。ご家族にいつでも記録を見て頂くよう声かけし又掲示している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のご家族の状況やご本人の状況に合わせてサービスを行っている。 外出を好まれる利用者様には、出来るだけ外出の機会を作るよう努力している。 ご本人の希望に添える支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が住宅地のため、散歩の途中に近所の方から声をかけて頂いている。 地域の老人会の催し物に参加させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により各週往診に来て頂き健康チェックできている。 必要に応じて緊急往診や緊急対応の指示、協力を受けている。	ホームの協力医がかかりつけ医になっている方は2週間に1回往診があり、入居する前からのかかりつけ医を継続する方は家族と一緒に受診している。歯科受診も、月1回往診があるが、以前通っていた歯科に往診を依頼するなど利用者に安心してもらうように配慮している。受診結果は、お互いに連絡しあっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に5日看護師が来て健康チェックし把握できている。 変化のある方は申し送りを徹底し支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ホームでも生活情報を提供し、病状が安定したら早期退院をお願いしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医師と蜜に情報交換し、状態変化が有るときは、その都度意向を確認し、満足して頂ける終末期を迎えられる様支援している。	契約時に「看取り」について話し合い、1年に1回再確認している。家族がホームでの看取りを希望された時は意向確認として「看取り指針」を取り交わし、元気うちにできることを一番に考え支援している。看取り時には医師や訪問看護師と連携をとり、揺れ動く家族の気持ちも大切に関わっている。職員のメンタルケアは運営会議で研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりうる事故や急変時は再度職員に伝え対応の手順を再確認している。 AEDを設置後消防士を呼んで救命救急の講義を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間帯の火災を想定し避難訓練を行い、消火器の使用方法和利用者様の非難誘導もやっている。 地震・水害に対しては、備蓄できるものは、準備している。	年に2回、春と秋に避難訓練を実施している。スプリンクラー、火災通報装置を設置している。避難場所は運営推進会議で周知され、次回からは社会福祉協議会と連携して地域の方の参加を検討している。備蓄はホーム3ヶ所に分散して用意しており、適切な準備ができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけをしている。 赤ちゃん言葉や上からの命令形な言葉は絶対に使わないように指導している。	ユニット会議や運営会議のときに、利用者の声かけとして指示形ではなく、「～ませんか？」と、疑問形での声かけを心がけるなど、言葉かけの大切さを提案している。行事参加や外出なども本人の気持ちを尊重するが、気分転換をしてもらうための方法として参加につなげる工夫もできている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の行動などでシグナルを見落とさないよう努めている。 おやつ時の飲み物や行事の参加や外出も自己決定できるよう声掛けしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にて読書を好まれる方、廊下ソファでおしゃべりしたい方など個々のその時の状態に合わせて一人ひとりのスペースを大事にして、その人らしい暮らしを大切に支援するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて行っている。外出時などは、一緒に着るものを選び決めている。 理美容室に行きパーマやカラーをされる支援を行っている。2, 3ヶ月に1回訪問美容師に来て頂きカットをされる支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたい物等有るときは、献立に反映している。個々のその時の状況に合わせて、出来ることを共に行っている。 利用者様の得意な料理を作って頂いたり、食器洗い、お盆拭き等を一緒に楽しく行っている。	日当たりがよく明るいホールでゆっくり時間をかけて食事をしている。朝食は冷蔵庫の中にあるものを使って、利用者に味付けや料理方法を聞きながら一緒に作るなど、日常的に家事をしてもらっている。庭に野菜を植えたり、期間限定で刺身を出し季節感を味わうなど、楽しい食事の時間になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分摂取量をチェックし状態を把握し対応している。 個々に合わせて食事量を決めて、バランス良く摂取される様に支援行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。 困難なご利用者はスタッフが介助にて行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう援助している。 歩行困難なご利用者には、声かけ誘導にて介助行っている。	各ユニットに3ヶ所トイレがあり「厠・トイレ」と張り紙をして利用者にわかりやすい表示にしている。職員は、利用者にとって排泄は自立したいものであるということを理解している。耳元で声かけをし、その方に合った誘導の仕方を職員同士で共有して不快な思いをしない様に気をつけながら援助している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動と毎朝のバナナ入りヨーグルト等工夫し、自然排便が出来るよう援助している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1の援助でゆっくり入浴して頂いている。 臨機応変で希望のある時は対応している。	個室で1日3名にゆっくり入浴してもらっている。夜間の入浴や一人での入浴など個別の希望にもできるだけ対応しており、注意深く見守りを行っている。入浴を拒まれる場合は、時間をずらしたり、曜日を变えて無理強いすることなく対応している。日曜日は足浴を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠時間や状態を把握し対応している。病状や年齢、習慣によって日中でもゆっくり休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表や薬手帳で確認できるようにしている。 新しく処方がある時は必ず申し送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族の協力もあるが、ご本人の嗜好も考慮し支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩にお連れしたり又近くのスーパーに職員と一緒に買い物に行き、住民の方とのコミュニケーションも心掛けている。	近くのスーパーへ、個別に出かけていたり、公園などに気分転換を兼ねて外出し、近所の方とも顔なじみになって会話がはずんだりしている。手紙を書き、近くの丸型ポストに出しに行ったり、弁当を持ってテーマパークに行くなど外出を楽しんでもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人と家族の希望で、お金を持っている方もいる。 買い物の時にお渡しする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望があれば、いつでも電話できる体制はある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング等に季節を感じられるように花や飾りを工夫し取り入れている。窓から庭園、畑が望める。	壁の一部(腰壁)や床などに木材をふんだんに使い、ユニットごとに手作りの飾り物があり、明るい雰囲気空間になっている。乾燥予防のために加湿器を2台用意し、利用者にやさしい消毒液で清潔を保つ配慮がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、自由に過ごせる空間がある。気の合った入居者様同士、一緒に座られ話をされる事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒や壁掛け、写真等を持って来られご本人が心地よく過ごせるよう努めている。	居室は備えつけのベッドだけを用意しており、家族に馴染みのものを持ってきてもらうようにしている。使いやすい筆筒や若いころの写真が多く飾られ、楽しくゆったりと安心して過ごしてもらいたいという思いが伝わる居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせその時の状況を把握し過剰な介護はせず支援している。 リスクはあるが、出来る事の発見やそっと見守る事で出来るように支援する事を支援している。 下膳や食器洗い、掃除機かけ等。		